ふるさと
笠郷のいしぶみ

養老町立笠郷小学校・ＰＴＡ
ウエルカム２１地域活動推進協議会

はじめに

養老町立笠郷小学校長
安田　弘

私たちのふるさと「笠郷」は、美しく豊かな自然に恵まれ、人情の厚い土地であります。そして東西文化の交流が盛んに行われた地域です。このような中で、私たちの祖先は、数多くの貴重な出来事を後世に伝えるため、多くの「いしぶみ」を残して下さいました。

そして、私たちは、「いしぶみ」から祖先の願いや出来事を知ることが出来ます。そのことは私たちの生活を、一層豊かで潤いのあるものにしてくれます。さらにこうした文化的な財産を保存し、後世に伝えていくことが大切なことです。このような願いをもってこの小冊子を編集しました。

なおこの冊子と先般刊行しました「ふるさと笠郷」と合わせて活用を図っていただければ、より「笠郷」を知ることになると思います。

もくじ

○はじめに……1
Ⅰ、笠郷地区内のいしぶみ……3
Ⅱ、笠郷地区外で地域に関係するいしぶみ……19
Ⅲ、神社・仏閣に関係するいしぶみ……22
○参考資料
・ふるさとの地名の変遷……33
○あとがき……34
○養老町民憲章
○笠郷小学校校歌

（表紙題字　養老町教育長　髙木　正義）

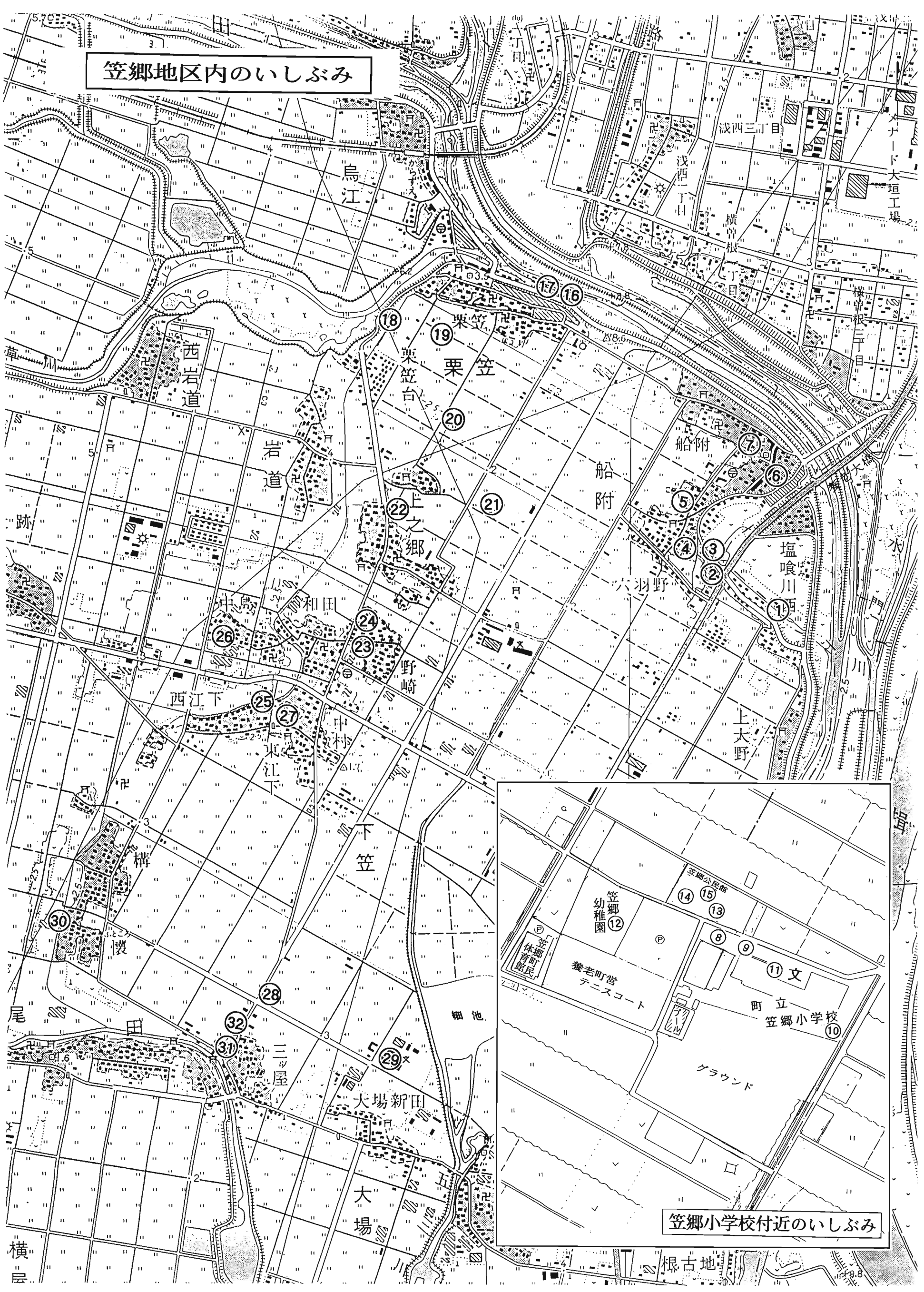
Ⅰ．笠郷地区内のいしぶみ

番号	所在地	名称
1	船附	道案内のお地蔵様
2		船附港址の碑
3		牛馬頭観音像
4		藤井実応歌碑
5		芭蕉句碑
6		金刀比羅常夜燈
7		谷家の句碑
8	学校周辺	笠郷中学校跡碑
9		笠郷小学校健康の碑
10		学校の教育目標「やりぬく子」・校歌碑
11		野口博士像と忍耐碑
12		笠郷幼稚園園歌碑
13		整地碑・埋立記念碑
14		忠魂碑
15		養老町民憲章の碑
16	栗笠	宮戸皆遵紀恩碑
17	栗笠	栗笠湊址の碑
18		九里半街道標柱碑
19		白山・貴船神社址碑
20		福地神社御旧址碑
21	上之郷	中村塚
22		川口銀蔵翁像
23	下笠	野崎の忠魂碑
24		新道記念碑
25		多藝輪中洪水水位碑
26		馬頭観音碑
27		下笠代官所址碑
28		希望の道碑
29		東部中学校校歌碑・校訓碑
30		市場千軒の霊碑
31		伊藤重松翁像
32		道祖神・馬頭観音像

Ⅱ．笠郷地区外で地域に関係するいしぶみ

番号	所在地	名称
1	池辺小坪	五三落江閘門の銘板
2	養老公園	髙橋千里顕彰碑
3	養老公園	旭松庵静和坊句碑
4	養老公園	渋谷代衛翁紀功碑

笠郷地区内のいしぶみ



笠郷小学校付近のいしぶみ

大神宮・秋葉神社の位置図

大神宮（参宮常夜灯）
秋葉神社

Ⅰ　笠郷地区のいしぶみ

一、道案内のお地蔵様

場所　元屋敷の児童公園内西隅

建立　時代不詳

※光背（こうはい）つきお地蔵様には左養老・高田、右大垣・竹ケ鼻と記されています。牧田川改修（昭和十四年着工の船附付近の新川付け替え）にともない、横曽根橋のたもとにあって旅人の安全と道案内を兼ねていましたが現在地へ移されました。

※光背とは仏像の後につける光明を表わす金色の輪、俗に後光という。

二、船附港址の碑

場所　旧の牧田川堤防が国道二五八号線と交わる所

建立　平成七年

中世末期から江戸末期までおよそ三百年にわたって繁栄した濃州三湊の一つであった。船附湊は、この地点から北方約五〇〇メートル上流、牧田川右岸の港という小字にありました。そして、三湊と※朝妻（あさづま）湊と結ぶ九里半街道の起点でもあり、伊勢湾と日本海をつなぐ物資流通の大変重要な港でありました。

※朝妻は現在の滋賀県米原町。

三、牛馬頭観音像

場所　旧牧田川堤防が二五八号線と交わるあたり

建立　時代不詳

顔が三つ、手が八本で頭部に馬の頭を飾った、馬の守護神（しゅごしん）として江戸時代に広く信仰されていました。台座に馬頭観音と並んで牛頭天王（ごずてんのう）と彫られています。この像は元屋敷にありましたが、昭和五十一年にこの地に移されました。七月にお祭りをしています。

四、藤井実応歌碑

場所　船附寺屋敷地内
藤井専二さん宅（生誕地）

建立　平成六年

明治三十七年船附で、後に我が仏教界の最長老にまでなられた、藤井実応（じつおう）が誕生しました。平成四年、九十三歳で亡くなられました。

浄土宗総本山知恩院第八十五世※門跡（もんぜき）。全日本仏教界会長

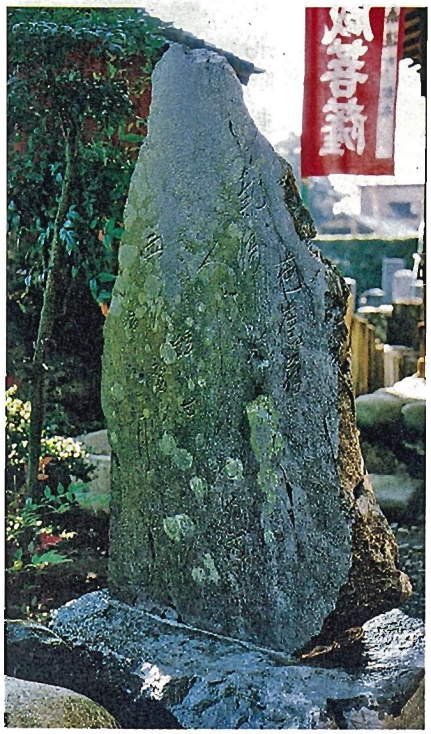
「人の世の　憂（う）き悲しみの　谷底を　静かに照らす　弥陀（みだ）の月かげ」

※門跡とは、浄土真宗で本願寺、また、その管長の称。

五、芭蕉句碑

場所　船附生蓮寺境内
建立　明治三十六年

明治の頃船附では俳句の好きな人が沢山いて活躍していました。
生蓮寺（しょうれんじ）には句碑が数基建てられています。その中に最近有名な芭蕉翁の
「今日ばかり　人も年寄れ　初時雨（はつしぐれ）」
の句碑が再発見されました。



六、金刀比羅常夜燈

場所　船附旧堤防上西側
建立　大正十四年
昭和五十一年移転

船附は濃州三湊の一つとして尾張藩の庇護（ひご）を受けて江戸時代には非常に栄えていました。
航路の安全を祈って、船頭の守り神である金刀比羅（ことひら）神宮の立派な常夜燈が湊に建てられていましたが、堤防改修工事で現在地へ移されました。

七、谷家の句碑

場所　船附中屋敷谷家の庭
建立　明治三十六年

船附郵便局の北に、代々庄屋を勤めた谷家の大きな屋敷があります。その庭の南西角に谷鉄石（てっせき）の句碑があります。明治の頃、四代前の当主鉄石が、この地の同士を集めて俳句の研究をしていました。

「かげろふと　なってのぼりぬ　※宿夕（よべ）の雨」

―鉄石―

※宿夕（よべ）とは、昨夜の意味。

八、笠郷中学校跡碑

場所　笠郷小学校西北隅体育館北
建立　昭和五十五年

笠郷中学校は昭和二十二年五月学校教育法が公布され、六三制が実施されるにともなって開校いたしました。

現在の小学校舎の場所に木造一階建て赤瓦の校舎が建っていました。昭和五十五年三月に閉校となりましたが、体育館とプールは当時のものです。

九、健康の碑

場所　笠郷小学校体育館北
建立　昭和五十二年一月

昭和五十・五十一年の二年間笠郷小学校は体力づくり研究の文部省指定を受けて研究を進めてきました。

二年目に当たる五十一年にその成果が認められて、学習研究社より学研教育賞を受けました。それを記念して、昭和五十二年に健康の碑を建立しました。

十、学校教育目標「やりぬく子」・校歌碑

場所　笠郷小学校東門
建立　昭和五十四年・平成六年

やりぬく子は昭和四十年に定められた学校の教育目標で伝統になっています。よく見ると羊の姿をしていますが、未(ひつじ)年の昭和五十四年に建立しました。

校歌碑は、養老町制四十周年を記念して平成六年八月に建てられました。裏には学校の沿革(えんかく)が刻まれています。

十一、野口英世像と忍耐の碑

場所　笠郷小学校北玄関

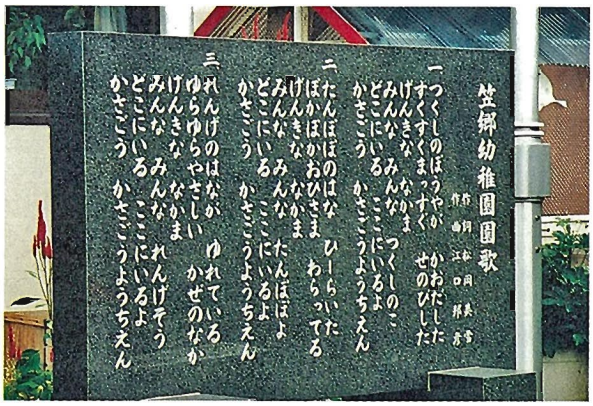
建立　昭和三十三年

明治以来の多くの小学校（当時は尋常小学校、戦時中は国民学校）には二宮尊徳の像が建てられていました。笠郷小学校にも三十年代初め頃まであったそうですが、破損したためその代りに、大石吉六という人が、野口博士のような立派な人に育つように願って、忍耐の碑と共に寄贈されました。

十二、笠郷幼稚園の園歌碑

場所　笠郷幼稚園園庭

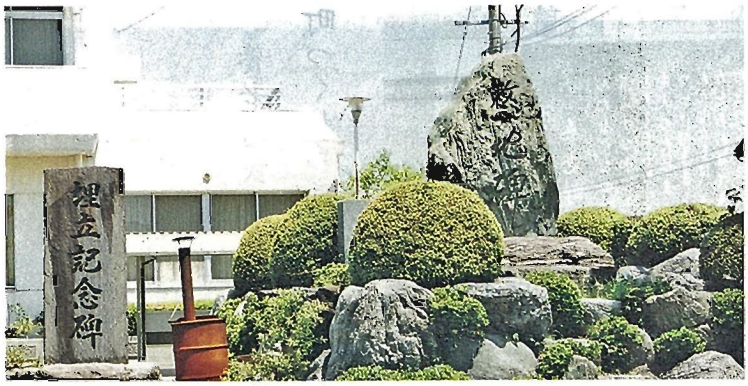
建立　平成六年八月



笠郷幼稚園は、「これからの時代には幼児教育が大切だ」という地域の願いから、平成元年に創立されました。開園したものの、園児達が声をそろえて唄う園歌がなかったため、平成六年養老町制四十周年を記念してＰＴＡや地域に呼びかけをした結果、当時の保護者であった松岡美雪さんの詞が選ばれ、そして江口邦彦さんがその詞に作曲をしました。

十三、整地碑・埋立記念碑

場所　笠郷公民館前
建立　整地碑　昭和四十五年
　　埋立碑　昭和四十二年



昭和三十四年の二度にわたる大水害で、この地方の田畑に土砂がたまってお米が作れなくなってしまいました。

そこで昭和三十五年から救農土木事業として工事が行われ、田畑の整地や、堀田の埋め立てが始まりました。その苦労を記念して建てられました。

十四、忠　魂　碑

場所　笠郷公民館敷地内西南隅
建立　昭和六年十月

小高く土盛りした上に建られている約五メートルの高さの忠魂碑で、下笠輪中内最大の石碑です。

昭和六年、陸軍大将一戸兵衛書と刻まれています。日露戦争等の戦没者の慰霊碑と思われますが、太平洋戦争の戦没者も※合祀されていて春に慰霊祭が行われます。

※合祀とは二以上の神や霊を合わせまつること。

十五、町民憲章の碑

場所　笠郷公民館前

建立　平成六年

養老町民憲章は昭和四十八年に輝かしい未来の町づくりめざして、心豊かでうるおいのある明るい郷土「養老」を築きあげていくために制定されました。

前文と三つの内容から成り立っています。

養老町のあらゆる会合や会議の前には、朗唱をして実践活動を展開しています。町制四十周年を記念して建立されました。

十六、宮戸皆遵紀恩碑

場所　栗笠地内牧田川堤防上

建立　大正十年

宮戸皆遵は安政元年(一八五四)栗笠で生まれた教育者です。明治八年より小学校※訓導となり、栗笠や牧田村の小学校に就任されたことが裏に彫られています。最後は安八郡で校長を勤めて大正三年に病没され、その遺徳を偲んで有志の者が建立しました。

※訓導とは現在の教諭のこと。

十七、栗笠湊址の碑

場所　牧田川堤防上栗笠地内
建立　昭和三十七年

横曽根から烏江にかけて船附・栗笠・烏江の三つの集落は、湊町として栄え、濃州三湊と名付けられていました。

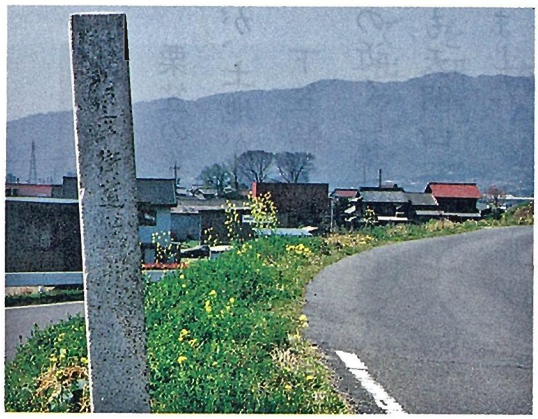
関西北陸へは木材・塩・米・磁器・紙等が、尾張伊勢方面へは菜種油・木炭・綿などが運ばれていました。

十八、九里半街道標柱

場所　金草川堤防と県道が分かれる所
建立　大正四年

濃州三湊で陸揚げされた荷物を一番はやく関西や北陸へ運ぶには琵琶湖を利用するルートでした。

そこで船附から牧田、関ケ原を通り、中山道を利用して米原の朝妻(あさづま)湊に至る距離が※九里半あったので九里半街道とよばれ、昔は大そうにぎわいました。



※九里半は約三十八キロメートル。

十九、白山・貴船神社址碑

場所　白山は栗笠地内堤防下
　　貴船は栗笠台団地の東
建立　貴船、白山神社社共に昭和五十年

栗笠には福地神社の外、白山神社と貴船神社もありました。二社とも創建年代はわかりません。

白山神社の祭神は白山比咩神（しらやまひめのかみ）、貴船神社の祭神は、闇龍神（くらおかみのかみ）と言い、古い時代にはこの附近一帯を貴船郷（きぶねのごう）と言いました。

二十、福地神社御旧址碑

場所　福地神社の南約六百メートル
建立　昭和四十九年

栗笠の集落は今の所よりずい分南にありましたが、土地が低くて洪水に悩まされていました。

下笠輪中が形成された後に、少しでも高い堤防の近くに集落が移っていきました。それで福地神社も天明四年（一七八四）に現在の所へご※遷座（せんざ）されました。

※遷座（せんざ）とは神仏の座をほかへ移すこと。

二十一、中村塚碑

場所　上之郷の北東（田の中）
建立　時代不詳

室町時代に活躍した赤松則村（あかまつのりむら）という大名の子を、中村某が養い中村姓と改めたのが中村家のはじまりです。

この墓地には刀や鎧（よろい）が埋められていると言われ、墓地を掘ったり木を切ったりするとたたりがあるとも言われています。

二十二、川口銀蔵翁像

場所　小倉・烏江・大垣線東側
　　上之郷地内
建立　昭和二十五年

稲の束を持ったユーモラスな石像は、明治十二年に上之郷村に生まれた川口銀蔵です。

硫安（りゅうあん）という肥料を使ったり、この人独特の技術を研究してお米つくりの名人になりました。遠くまで出かけて、お米づくりの指導をしました。

二十三、野崎の忠魂碑

場所　県道小倉・烏江・大垣線東側
　　野崎地内
建立　大正四年

裏の碑文に「御即位記念大正四年仲秋建設、下笠青年会野崎支部会員発起、野崎組中」と書いてあります。

野崎では日露戦争で多数の戦死者が出たので、その冥福を祈る慰霊碑として建立されましたが、支那事変、太平洋戦争も合祀されています。

二十四、新道記念碑

場所　県道小倉・烏江・大垣線東側
　　野崎地内
建立　大正四年

大正四年に大正天皇のご即位を記念して上之郷と下笠の間に新道が作られました。幅二間、長さ約一千間（約一千八百メートル）で当時としては立派なものでした。今の県道小倉・烏江・大垣線の一部となっていますが改修が重ねられています。

二十五、多藝輪中洪水水位碑

場所　早戸神社境内

建立　昭和五十四年八月

この碑には二つの横線が彫られています。昭和三十四年八月十三日と九月二十七日の二度に渡る牧田川決潰（けっかい）による洪水の高さを示したものです。

この碑の北の土手の頂上が、旧下笠輪中堤唯一の原形の高さと言われます。

二十六、馬頭観音碑

場所　下笠中島地内児童公園西隅

建立　昭和十八年

笠郷でも昭和三十年頃までは牛馬が多く飼われて農耕の主力でした。

馬頭観音は馬の守護神（しゅごしん）として、江戸時代に広く信仰されていました。村人達は感謝と供養の気持ちから、自然石に馬頭観音と刻んだ石碑を集落のはずれ等に建てました。

二十七、下笠代官所址碑

場所　素戔嗚神社の北
建立　昭和六十一年

元和元年（一六一五）東江下に代官所が置かれました。代々石原清左衛門を名のり、四代目までの八十四年間幕府領の村々を支配しました。

代官の石原家は下笠で新田を開発したので、家来の百姓（家中組）も多く住んでいました。

二十八、希望の道碑

場所　県道小倉・烏江・大垣線と希望の道の接点（東部中学校西）
建立　平成四年

養老町の第三次総合計画により、人にやさしい道づくりとして計画されました。年中花が咲くように工夫もされています。

二十一世紀を担う生徒が通う道として「希望の道」と命名され、清水敏郎町長の直筆で石に彫り込まれています。

二十九、東部中学校校歌碑・校訓碑

場所　東部中学校玄関前

建立　昭和五十九年四月

東部中学校は昭和五十五年四月に笠郷小学校、広幡小学校、上多度小学校そして池辺小学校の通学区域を校区として開校しました。

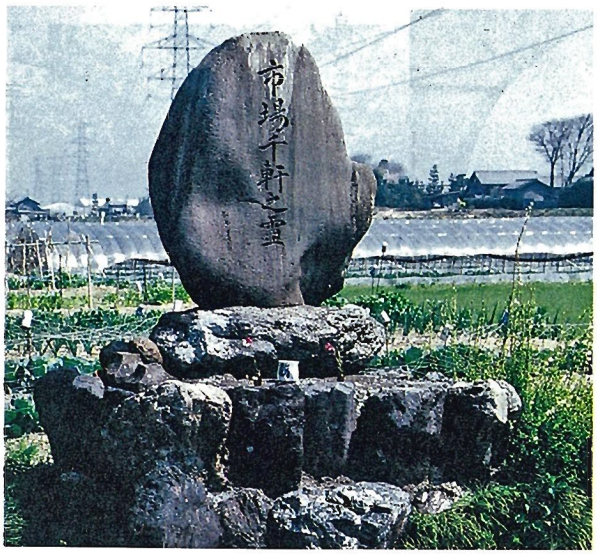
校歌は昭和五十八年二月に詞を野田満先生に、曲を西村昭平先生によってつくられ披露されました。また「自主、協力、鍛錬」の校訓碑は創立十周年記念として、ＰＴＡが中心となって建立しました。

三十、市場千軒の霊碑

場所　懐の集落を西へ出た畑の中

建立　昭和二十七年

今から八百年位前に大跡新田（おおあとしんでん）から下笠の懐（ふところ）にかけて、市場千軒（いちばせんげん）という大きな集落があり市場も繁栄していたそうです。



養老から今尾を結ぶ津島街道に沿っていて栄えたことでしょうが、信長の兵火で灰になったと伝えられています。

三十一、伊藤重松翁像

場所　県道小倉・烏江・大垣線
　　西側三ツ屋地内
建立　昭和三十七年

明治三十年に下笠の三ツ屋で生まれた伊藤重松(じゅうまつ)は、お米の増産に大変な苦労を重ねました。

特に、戦前戦後のお米の少ない時に、硫安を使った栽培法を考えて県内外の人々に教えました。教えを受けた人たちが生家の庭に建てました。

三十二、道祖神・馬頭観音像

場所　下笠三ツ屋地内
建立　時代不詳

三ツ屋入り口にある太神宮常夜灯のすぐ隣に、高さ三十センチ程の小さな双体の道祖神(どうそじん)がたてかけられています。

更に北隣には、三面の馬頭観音がまつられています。ばらばらにあったものを、土地改良の後にここに集められたもので、地蔵盆にあわせて小祭りが行われます。

Ⅱ. 笠郷地区外で地域に関係するいしぶみ

一、五三落江閘門の銘板

場所　池辺校区小坪の津屋川閘門

建立　明治四十三年

寛文十一年（一六七一）、下笠輪中にたまる悪水を落とすために細池から小坪まで四千七百メートルの落江を掘る大工事がありました。昔は下笠輪中悪水落江と言いましたが、今は五三川となっています。

※笠郷の五か村と池辺の三か村で組合を作って管理した名ごりです。

※笠郷の五か村とは、船附・上之郷・栗笠・下笠・大野であり、池辺の三か村とは、瑞穂・根古地・大場です。

二、高橋千里顕彰碑

場所　養老公園内の養老寺境内

建立　天明元年（一七八一）

享保二年（一七一七）栗笠に高橋弥四郎（千里）が、自分の家で寺子屋を開きました。

習字、読書、珠算等を教えたほか、代官の手代（役人）を勤めた程有名になりました。遠く伊勢や尾張からも習いに集まり、多くの門人を育てました。

三、旭松庵静和坊句碑

場所　養老公園　養老寺境内
建立　明治十二年六月

旭松庵静和坊は、文化五年（一八〇八）下笠懐の田中家に生まれました。泰造重政を名乗り長右衛門を襲名しました。俳句の研究を積み、有名な俳人となりました。明治二十二年八十二歳で没しました。

句碑には
「萍（うきぐさ）や　とどまる
　處に　花の咲く」
とあります。
この田中家も徳川時代苗字帯刀を許され庄屋・年寄りをつとめました。

四、渋谷代衛翁紀功碑

場所　養老公園唐谷橋の奥
建立　明治三十六年

文政七年（一八二四）大野の庄屋に生まれた渋谷代衛は郷土につくした人でした。学校を作ったり、堤防を修理したり、養老公園を整備したりしました。

明治二十九年七十三歳でなくなりましたが、公益に尽くした代衛を偲（しの）び業績（ぎょうせき）をたたえる立派な紀（き）功碑（こうひ）が建てられました。

Ⅲ. ふるさとの神社・仏閣のいしぶみ

番号	所在地	名称
1	船附	八幡神社
2		高稱山生蓮寺
3		紫雲山法覚寺
4		法龍山尊光寺
5	栗笠	市神神社
6		須賀神社
7		福地神社
8		醍醐山専了寺
9		東郡山興専寺
10	上之郷	隼人神社
11		大悲山願専寺
12	下笠	早戸神社
13		素戔嗚神社
14		八剣神社
15		八幡神社
16		宝珠山浄誓寺
17		弘誓山浄雲寺
18		薬師堂
19	大野	八幡神社
20		満促山覺林寺

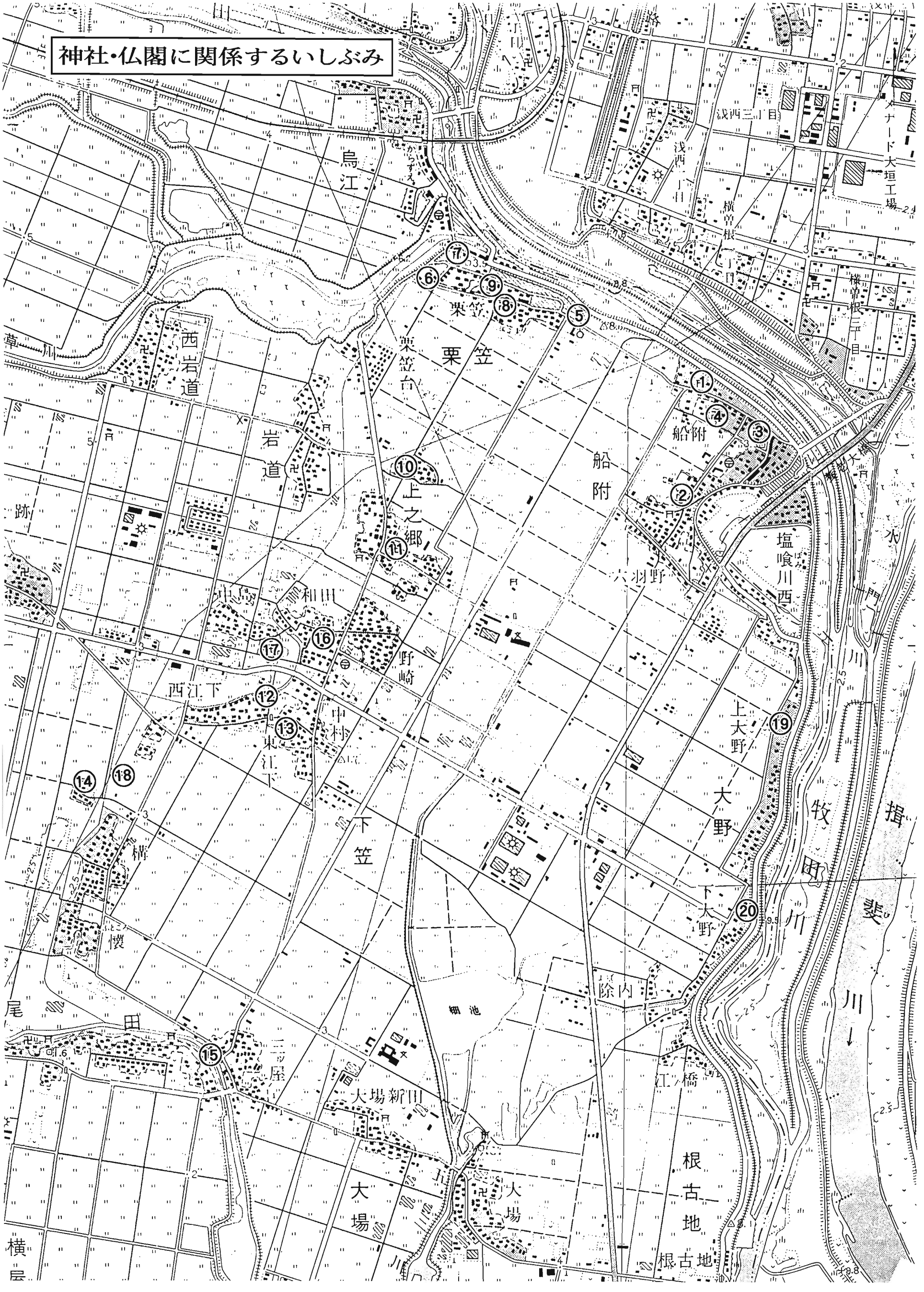
秋葉神社

番号	所在地	
1	船附	鼠ヶ森
2		中屋敷
3		港
4		紺屋敷
5		寺屋敷
6		六羽野
7		元屋敷
8	栗笠	西町
9		東町
10	下笠	三ツ屋
11		懐
12		構
13		西江下
14		東江下
15		中村
16		中島
17		和田
18		野崎
19	大野	上大野

大神宮（参宮常夜灯）

番号	所在地	
1	船附	中屋敷
2	栗笠	西町
3		東町
4	上之郷	上之郷
5	下笠	三ツ屋
6		懐
7		構
8		西江下
9		東江下
10		中村
11		中島
12		和田
13		野崎
14		除内
15	大野	上大野

神社・仏閣に関係するいしぶみ



Ⅲ. 神社・仏閣に関係するいしぶみ

一、八幡神社

場所　船附地内牧田川堤防下

創建　寛文五年（一六六五）

祭神は応神天皇、比咩神、神功皇后。安田孫三郎という人が伊勢神宮へ行って八幡大神を勧請し、船問屋の安田弥兵衛の所有地に創建しました。

お祭りも盛大に行われ、「でんがらかし」等の祭踊りは、養老町無形文化財に指定されています。

二、高稱山生蓮寺

場所　船附寺屋敷地内

創建　正徳元年（一七一一）

正徳元年（一七一一）創建の笠郷で一番後に出来た浄土宗の尼寺でした。

お堂には「芭蕉翁」と記された立派な位牌が祀られ、庭には芭蕉の句碑などがあります。これは近くに谷家の主人を中心に生蓮寺で俳句の研究がさかんであった事がわかります。

三、紫雲山法覚寺

場所　船附港地内

創建　大永六年（一五二六）

大永六年（一五二六）安田織部という元北面の武士が、證如上人に帰依※得度して慶了と号して米野に安田法覚寺を創立しました。

永禄元年（一五五八）現在に移転し、慶長十一年（一六〇六）東本願寺に属しました。本尊は阿弥陀如来です。濃尾大震災で本堂が倒壊、その後建立されて現在に至っています。

※得度とは出家すること。

四、法龍山尊光寺

場所　船附鼠ガ森地内

創建　長録二年（一四五八）

濃尾地震で倒壊後再建され、更に牧田川改修により昭和八年に現在地に新築されました。

天保七年（一八三六）、多良村の高木修理より寄付をされた蓮如上人自作の阿弥陀仏と自尊像各一体が安置されています。真宗大谷派。

五、市神神社

場所　栗笠東堤防下

創建　年代不詳

祭神は大市姫神（おおいちひめのかみ）です。栗笠村が濃州三湊の一つとして栄え、また六斎市（ろくさいいち）といって毎月六回市場が開かれるようになりました。

当時（江戸時代中期）の市場の守護神として勧請されたのでしょう。今も「提灯ちぎり」という神事が行われます。

六、須賀（すが）神社

場所　栗笠西金草川堤防下

創建　年代不詳

栗笠東の市神神社に対して西端にある小さな神社です。

祭神は素盞嗚命（すさのおのみこと）という村内の安全や疫病（えきびょう）がはやらないように守って下さる神様で、別名を牛頭天王（ごずてんのう）とも言います。市神神社とセットにした「提灯ちぎり（ちょうちん）」が七月十六日の夕方に行われます。

七、福地神社

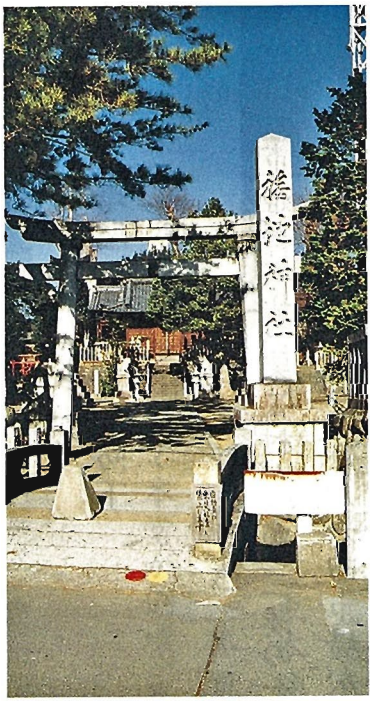
場所　栗笠地内金草川堤防下

創建　年代不詳

大昔、富士（ふづち）と言われた栗笠村はやがて「ふくち」となり社名になったと言われています。

祭神は大物主神（おおものぬしのかみ）（大国主命（おおくにぬしのみこと））創建年代はわかりませんが、貞享四年（一六八七）の洪水で記録が流失し、更に火災にもあって明らかではありません。

祭踊り、祭堤灯は町の重要文化財に指定されています。



八、醍醐山専了寺（だいごさんせんりょうじ）

場所　栗笠地内

創建　治承元年（一一七七）

もとは天台宗で今の養老町勢至（せいし）の「勢至千軒寺三ヶ寺」といわれた寺の一つでした。

文明十七年（一四八五）に真宗に改宗し、後に栗笠へ移ってきました。宗派は真宗大谷派で、本尊は阿弥陀如来です。中世末に栄えた勢至の※鉄座（てつざ）に関係する資料などが保存されています。

※鉄座とは、江戸幕府の鉄の専売機関。

九、東郡山興専寺（とうぐんざんこうせんじ）

場所　栗笠地内

創建　年代不詳

他の寺と同様にもと天台宗でしたが、火災のために記録がなくて詳しくはわかりません。

文明十六年（一四八四）西了という僧が本願寺第八世蓮如上人に※帰依して、大永三年（一五二三）三月に真宗に改宗したと伝えられています。

※帰依とは、神仏や高僧などのすぐれた者を信じそれによりすがること。

十、隼人神社

場所　県道小倉・烏江・大垣線東　上之郷地内

創建　年代不詳

祭神はわかりませんが火蘭降命（ほのすせりのみこと）とも言われています。

創建は不詳ですが、寛文七年（一六六七）に領主、高須藩小笠原土佐守が武運長久（ぶうんちょうきゅう）の為に再興したと伝えられています。文政六年（一八二三）に拝殿を再建したという棟札が残されています。

写真　社標後方は隼人神社の常夜燈です。

十一、大悲山願専寺（だいひざんがんせんじ）

場所　上之郷地内

創建　大同三年（八〇八）

寺の記録に開基（かいき）は大同三年（八〇八）とこの地方では最も古いが、途中二回程中絶しています。

文治三年（一一八七）天台宗で再建されましたが、明応六年（一四九七）願専寺として真宗に改めました。赤松則村（あかまつのりむら）（室町時代の大名）の位牌（いはい）があります。

十二、早戸神社

場所　下笠西江下地内

創立　年代不詳

祭神はわかりませんが、手力雄命（たぢからをのみこと）ともいわれています。

元和元年（一六一五）に置かれた下笠代官所の代官石原清左衛門の崇敬（すうけい）があつかったので立派になりました。祭礼には各部落から練り込む「打ちはやし」は町の無形文化財に指定されています。

後方は下笠輪中堤のなごりです。

十三、素戔嗚神社

場所　下笠東江下地内

創建　年代不詳

祭神は素盞嗚命（すさのおうのみこと）です。神仏※習合（しゅうごう）で牛頭天王ともいわれ、厄払（やくばら）いの神様として崇敬されています。八月には牛頭天王と書いた行灯（あんどん）を掲げてお祭りをし、後に奪い合う「行灯ちぎり」がおこなわれています。

※習合とは、種々の教をあわせること。例えば、インドの仏教の守護神牛頭天王と日本の神様素盞嗚命とは同じお方である。

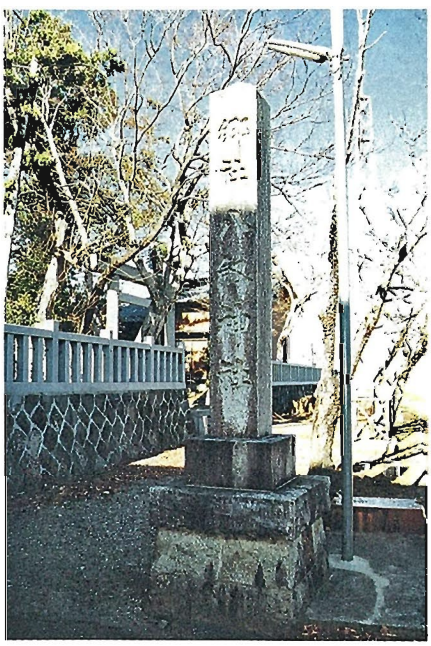
十四、八剣（やつるぎ）神社

場所　構地内北

創建　年代不詳

祭神は日本武尊（やまとたけるのみこと）で熱田神宮境内にまつられている八剣神社を勧請したものと伝えられています。

元禄一五年（一七〇二）造営の棟札や、万延元年（一八六〇）と記した石灯篭（いしどうろう）などが残されています。明治二十九年の大洪水で神殿が流失したので、同三十一年に再造営されました。



十五、八幡神社

場所　下笠三ツ屋地内輪中堤下

創建　年代不詳

祭神は応神天皇、比咩神、神功皇后です。創建年代はわかりませんが、敷地内に天保五年（一八三四）と刻まれた石灯篭があります。

一月十五日には大釜で小豆粥を炊いて、竹の管へ入ったお粥の量で豊凶を占う「粥占」神事が古式を守って行われます。

十六、宝珠山浄誓寺

場所　下笠和田地内

創建　久寿二年（一一五五）

もとは天台宗でしたが文明十一年（一四七九）真宗に改められました。本尊は阿弥陀如来です。

天台宗観音寺の頃は構・懐の西にありましたが、文明十三年（一四八一）に現在地へ移りました。本堂の狭間の彫刻は高田の彫刻師早瀬忠兵衛の作で町の重要文化財に指定されています。

十七、弘誓山浄雲寺（ぐぜいざんじょううんじ）

場所　下笠中島地内

創建　建歴二年（一二一二年）

建歴二年（一二一二年）宗祖である親鸞上人（しんらんしょうにん）の法子慶雲を開基として、市場（懐の西）に創建されたといわれています。後に（信長の頃）なって現在の所に移転されたもので、現在の住職は二十五世にあたります。本尊は阿弥陀如来です。

十八、薬師寺

場所　下笠湯口地内

創建　年代不詳

昔、豪族田中嘉平衛が下笠地内に住んでいた頃に創建されたとの説があります。

本尊の薬師如来は、ある年の大洪水で知多半島の常滑まで流されて、そこで浜薬師（はまやくし）としてまつられています。そこで下笠へ返してもらうことになり、身代わりの仏様がお帰りになりました。

十九、八幡神社

場所　大野地内上大野牧田川堤防上

創建　年代不詳

祭神は応神天皇（おうじんてんのう）、比咩神（ひめのかみ）、神功皇后（じんぐうこうごう）で、数百年という老樹があったと言われています。

昔は堤防の決壊がよくあったので高い位置に洪水の水神さん、東側にはお百姓の神様である御鍬神社（おくわじんじゃ）がおまつりしてあります。

二十、満促山覺林寺（まんそくざんかくりんじ）

場所　大野地内下大野

創建　大永二年（一五二二）

創建以来、今まで住職が十四代続いています。

享保六年（一七二一）には本堂が再建され、宝暦十二年（一七六二）鐘楼が建られています。

昭和三十四年の伊勢湾台風の後牧田川の堤防改修にあたり、堤の東側にあったものが、やや北よりの堤防西側に移転しています。

二十一、秋葉神社

場所　笠郷地内各地

船附村ではその昔、火事が多く発生したので、火の守り神である火之迦具土神（ひのかぐつちのかみ）を静岡県の秋葉神社から御分身として勧請したと言われています。

船附には玉垣のある立派なものの他に、全部で七ヶ所にまつられ、笠郷地内には十九社あります。創建不詳ですが祭礼はおこなわれています。

二十二、大神宮（参宮常夜灯）

場所　笠郷地内各地

一般に大神宮と呼ばれている常夜灯で、伊勢神宮への献灯でもあり信仰の深さが伺われます。伊勢内宮御分身船附の常夜灯は玉垣で囲まれた立派なもので、基礎部分には支那事変に出征した兵士の武運長久を祈って名前が刻まれています。笠郷地内には十五基あります。

ふるさとの地名の変遷

西　暦	年　号	で　き　ご　と	地名のうつり変わり
1億年位昔		海の底であった	
1千万年位昔		平野を形作る	
702	大宝　2		美濃国多伎郡と初めて書かれている（タギノゴホリ）
855	斉衡　2		多藝郡を多藝郡と石津郡に分ける
938	天慶　1		和名類聚抄に多藝郡富上と書かれているが、これは富土の間違いで後に福地となる
	元亀年間	下笠に市場千軒繁盛戦火で消滅する	
1465	寛正　6	濃州三湊ができ、九里半街道が栄える	船付と言う地名が書かれている
1582	天正10	下笠輪中ができる	太閤検地に大野・下笠の地名がある
1615	元和　1	下笠代官所ができる	
1671	寛文11	下笠輪中悪水落江工事を開始 宝暦治水工事完成	
1871	明治　4	デ・レーケの三川分流工事始まる	美濃国が岐阜県となる（多藝郡）
1884	明治17		下笠と、船附・横曽根・烏江・栗笠・大野が連合で船附に役場を置く
1889	明治22	濃尾大震災	船附村と大野村が合併して船着村となる
1897	明治30		養老郡と変わる 合併して笠郷村をつくる
1954	昭和29	耕地整理・干拓工事	合併して養老町となる
1994	平成　6		町制40周年記念

あとがき

養老町ウェルカム21活動
笠郷地区推進協議会会長
伊藤泰秋

この度、「笠郷のいしぶみ」をウェルカム二十一活動の記念誌として、全戸に配布することができました。執筆・編集にご盡力いただいた水野建（前）安田弘（現）校長先生、ご協力賜った皆様方に厚くお礼申し上げます。

本誌は、いしぶみ（碑）について、分り易くまとめられています。町制四十周年に配布した「ふるさと笠郷」と「いしぶみ」は、笠郷に住む者にとって郷土を知る大切な本でありこの二冊の本によって笠郷の歴史が後世に残ることは誠に喜ばしいことです。大人も子供さんも是非お読みいただき、今一度ふるさとを見直していただきたい。

二十一世紀に向けて、心豊かに住みよい地域が築かれていくことを願っております。

ふるさと笠郷のいしぶみ

○監修
田中育次
（養老町文化財保護審議会会長）

○参考文献
養老郡史、養老町史、
ふるさと笠郷、のびゆく養老町、
機関誌「養老町の文化財」

○発行
・ウェルカム21地域活動推進協議会
・養老町立笠郷小学校・PTA

○おわびとお礼
この冊子を編集するにあたり、水野建(前)校長先生をはじめ多くの方に資料等を提供していただきました。紙面の都合で、略させていただくことをおわび申し上げます。有り難うございました。

○刊行　平成十年二月吉日

○印刷　有限会社　ダイヤ印刷
TEL（〇五八四）七一―一一九二

養老町民憲章

わたしたちの町、養老町は、緑の山、清らかな水に恵まれた歴史の町です。

わたしたちの、この美しいふるさとは、先人のたゆまぬ努力によって伸びつづけてきました。

わたしたちは、愛の輪をさらにひろげ、力をあわせて未来につづく明るい町をつくります。

一、おはよう　こんにちは　と元気な声がわく町にしましょう。

一、美しい自然の中で　力いっぱい働ける町にしましょう。

一、おとしよりが　豊かにくらせる町にしましょう。

笠郷小学校校歌

服部　芳樹　作詞
小木曽　薫　作曲

朝日をあびて
ぼくらはうたう
あかるく肩をくみあって
笠郷笠郷笠郷のなかま
さあいっしょに行こう
ぼくらのゆくては
風かけめぐる
この青空のひろがりだ

夕日をうけて
わたしたちはうたう
やさしく手と手をとりあって
笠郷笠郷笠郷のなかま
さあいっしょに行こう
わたしたちのゆくては
花ぞののみち
もえたつ夢が咲きそう

われら笠郷小学校
われらのびゆくどこまでも
どこまでもどこまでも
たくましくたくましく
たくましく